



霧島山の新燃岳が噴火しました

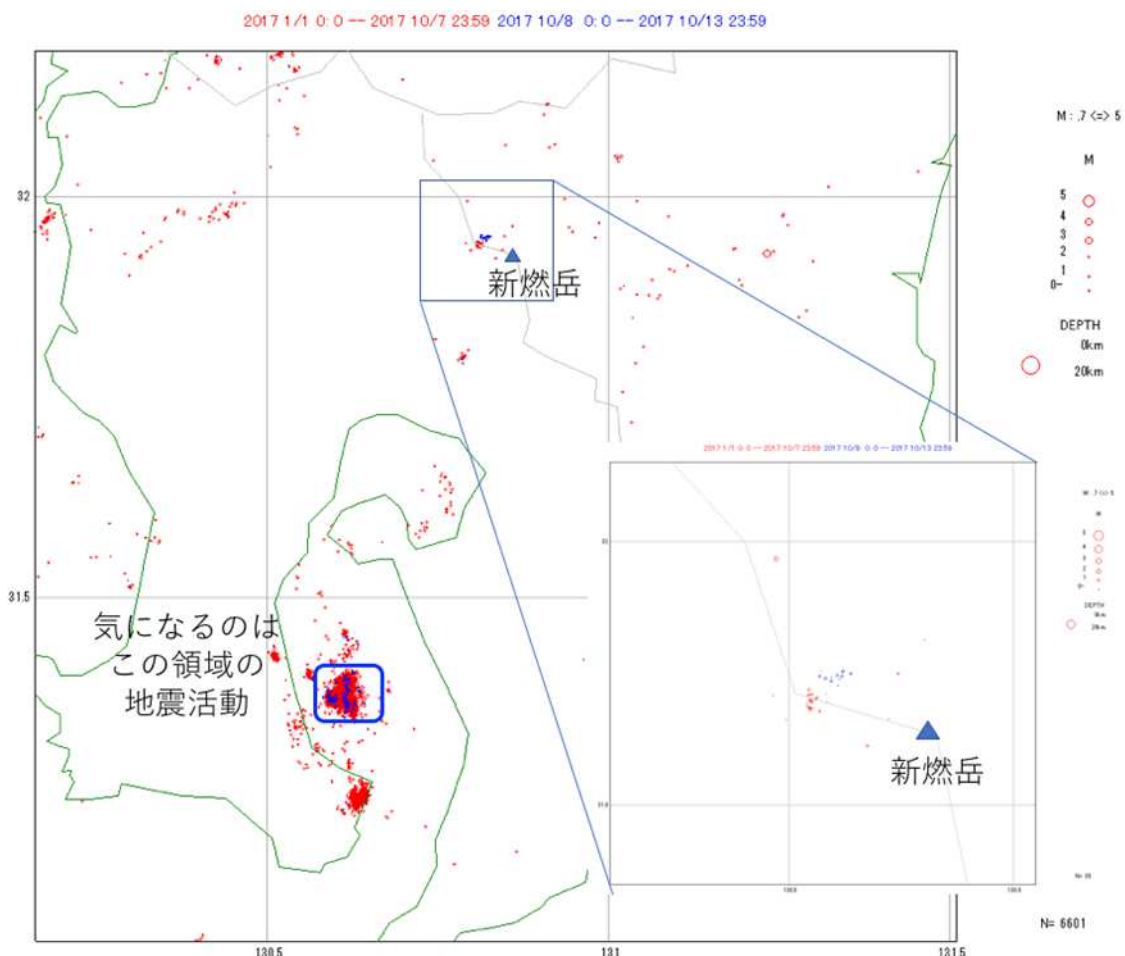
霧島連山の新燃岳の活動が活発化しており、メディアを賑わしています。新燃岳は安山岩という比較的粘り気のある岩石が中心のため、伊豆大島や三宅島といった火山と違い、より爆発的な噴火を引き起こす可能性があります。

歴史的には紀元 788 年から噴火の記録があり、1112 年、1235 年、1524 年と続きます。1500 年代後半から 1700 年代中盤まで数多くの噴火記録が残されています。特に 1716 年から開始した噴火活動は大きなものでした。その後も活発な活動を続けてきましたが、最近では 2011 年に比較的規模の大きな噴火をしており、今回の活動はそれ以来のものです。

特に今回の活動は山体の膨張が現在も続いており、地下からのマグマ供給がまだ継続している事がわかっています。

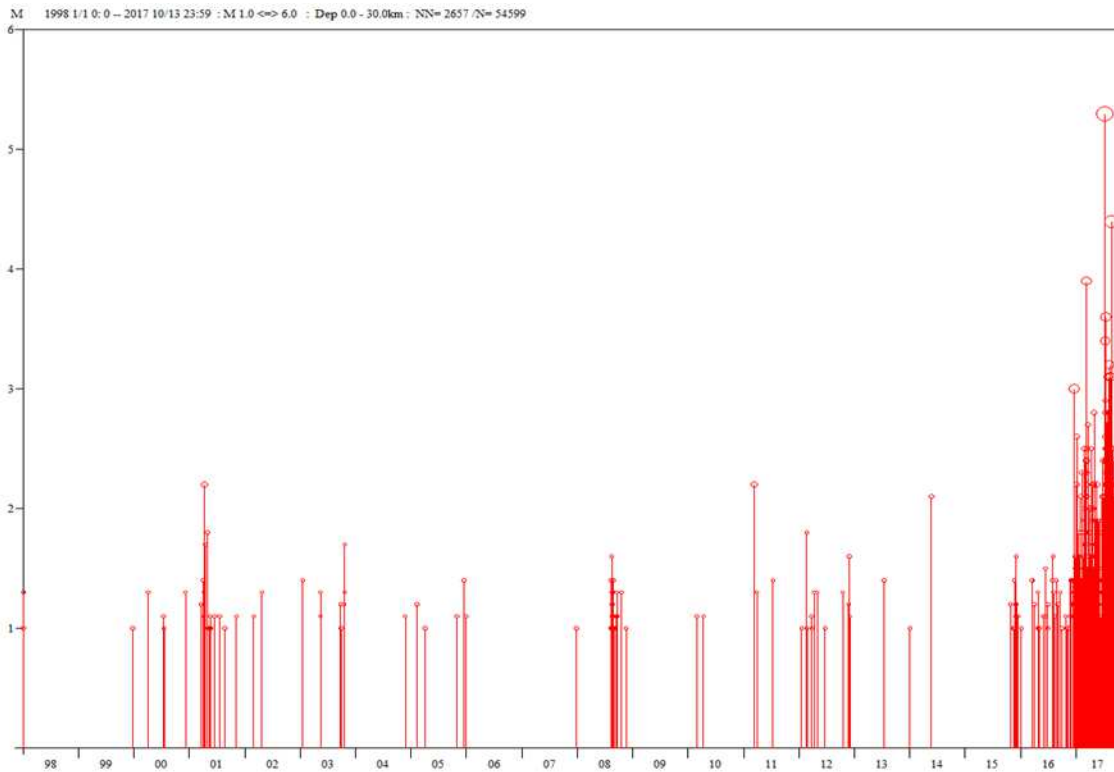
幸い鹿児島空港は霧島連山の南西側に位置しているため、比較的火山灰の影響は受けにくい方向にはあります。ただ風向きによっては航空機の運行に影響が出る可能性もありますので、ご旅行等の際には事前に十分な情報収集に務めるようお願い致します。

下の図は鹿児島県を中心とした 2017 年の地震活動ですが、赤い点は 1 月から 10 月 7 日まで、青い点が 10 月 8 日から 13 日に発生した地震です。新燃岳近傍では現時点では、ほとんど地震は発生していない事がわかりました。それよりもこの地域で気になる地震活動は図中で青い□で囲った鹿児島湾内での地震活動です。





この鹿児島湾内の地震は従来は低調であったのですが、今年になってから非常に活発化しているのです。下の図は 1998 年からの□の中の領域の地震活動で、2017 年になって非常に激しくなっているのがわかります。横軸は 1998 年から 2017 年 10 月までのほぼ 20 年間となっています。



実はこの場所は阿多カルデラと呼ばれる巨大火山の噴火口（カルデラ）が存在します。この阿多カルデラは 11 万年ほど前に破局噴火という超巨大噴火をしています。

九州には阿蘇カルデラを始めとする、巨大カルデラが多数存在しています（右図：地質調査所・上野氏のまとめ）。特にこの図で一番南西に位置する鬼界カルデラは今から 7,300 年前に破局噴火を起こしています。この噴火で当時栄えていた南九州の縄文文化（南方系）が噴火以降すべて北方系に切り替わった事が知られています。つまり九州南部の縄文人が全滅してしまった噴火だったのです。

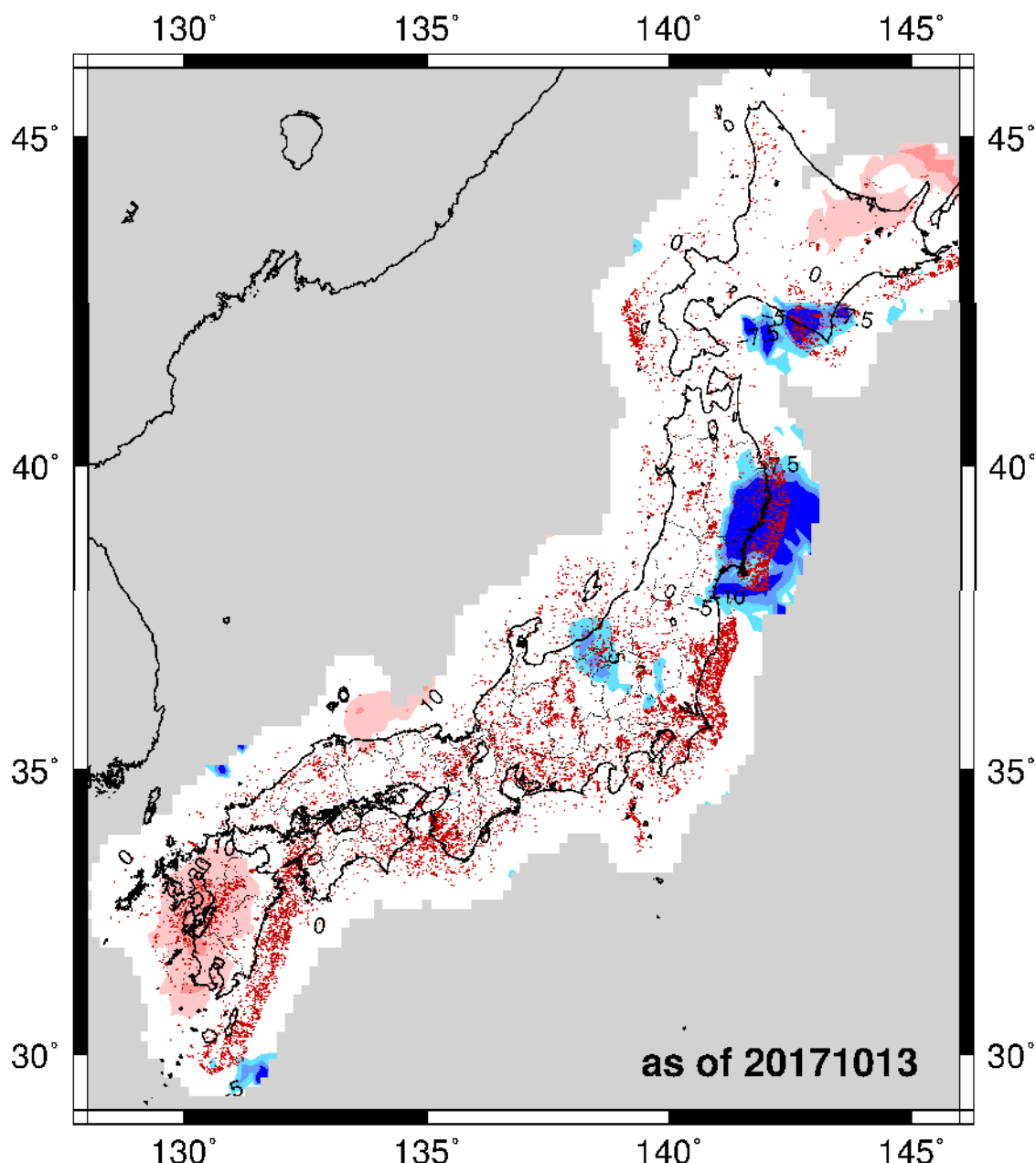




日本列島陸域の地下天気図®

9月11日のニュースレターに引き続き、日本列島陸域の地下天気図解析について報告させていただきます。先週の情報で「東北沖の状況が大きく変化しているようです」という事をお伝えしましたが、今週の解析でもやはり東北沖の海岸沿いの地震活動が明らかに変化していました。

下の図は10月13日現在の日本列島陸域の地下天気図です。発生時期はもう少し先になる可能性が高いですが、東北沖の海岸に近い地域での津波を伴うM7.5クラス地震の発生が今後予想される状況です（津波は海域で発生した場合のみ）。



現在の状況のまとめ

現在、地下天気図解析により日本列島陸域で地震発生準備の状況が整ったと考えられるのは、1) 瀬戸内海を含む中国地方西部地域、2) 北信越を中心とした北関東を含む地域の2地域が最も可能性が高い地域と考えています。